

むらた げんいちろう

村田源一郎氏(岩手日報現相談役)へのインタビュー

(次回のニュースから数回シリーズで連載する予定です)

村田源一郎さんと深澤村長

昭和33年6月に岩手医大からTという若い外科医が沢内病院に派遣されたが、この医師は評判が悪く、麻薬中毒におかされていた。昭和34年、盲腸手術に失敗して患者が死亡すると言った事件が起きた。手術中に禁断症状を起こしたのだ。この事件を岩手日報社北上支局長に着任したばかりの若い記者村田源一郎氏がかぎつけて、社会的に糾弾される記事を書き載せようとしていた……。

及川和男著「村長ありき」の一部より

※保健行政を推し進めていく為に「これから」といつ時の事件であり、村田源一郎氏には大変重要な重い決断をしていただいた。



H23年3月22日
岩手日報本社
相談役室において

村田源一郎さんについて

○プロフィール

昭和7年4月17日 花巻市大迫町大迫に生まれる
岩手大学農学部林学科を卒業
昭和30年4月 岩手日報社へ入社
昭和33年10月 同社北上支局長に
昭和36年8月 同社本社へ
平成8年6月 同社代表取締役社長に就任
平成22年6月 同社相談役に就任、現在に至る

○功績

平成8年6月から岩手日報社の代表取締役就任し、8年にわたってその職を努めたあと、代表取締役会長、取締役会長、相談役として引き続き公正中立の立場から言論機関の経営に携わり、新聞発行以外に文学賞や地域貢献事業を創設及び展開し、社会文化事業にも取り組むなど、新聞社を通じ本県の発展に貢献している。

また、民間団体活動では、日本ユニセフ協会、日本赤十字社、岩手県国際交流協会の役員等を通じ、人命尊重、国際社会、地域社会への奉仕の活動を行っている。

さらに、本県各種審議会等の数多くの委員を歴任し、幅広い識見を施策に反映させ、社内外の各般にわたり県勢の発展と県民生活の向上に貢献しており、同人の功績は今後も本県発展の礎となるものと思われる。

「深澤晟雄の会」さくら組による
慰問公演



慰問公演

「深澤晟雄の会さくら組
(小笠原一夫、佐々木孝道)



高田音頭を踊ってくれた
陸前高田の皆さん

5月7日(土)、刈滝閣に宿泊している陸前高田の皆さんへ慰問公演をさせていただきました。お返しにと陸前高田の皆さんが高田音頭を踊ってくれました。一時ではありましたが、楽しい笑いの1時間半でした。(5月11日は小笠原一夫さんと坂本神楽団の公演を行いました。)

寄付金をいただきました

ありがとうございますー

尼崎いのちの山河上映実行委員会」から

晟雄の会」へ寄付金をいただきました。

大切にに使わせていただきます。本当にあ

りがうございました。

来年10月石山にサンセットコスモスが咲く

石山総支部研修旅行「いのちの山河・沢内村を訪ねて」



「生命尊重の精神を実現した沢内村に行ってみよう」「いのちの山河の原点に触れてみよう!」2会場4回の映画上映を大成功に終えた石山総支部の皆様から声が上がりました。

10月11・12日の日程で沢内村へ向かうことが、石山総支部運営委員会で決まりました。そして計画から約3か月を経て、いよいよ当日の朝を迎えたのでした。朝5時30分、28名の組合員さんと3名の職員が大型バスに乗り込み出発です。約6時間をかけて沢内村へと着きました。現地では「NPO法人深沢晟雄の会」の方が沢内病院で待っていてくださり、まずは深沢晟雄資料館へ向かいました。そこでは1962年に立てられた計画を学びました。

- 沢内村
地域包括医療実施計画の目標
- 1、すこやかに生まれる
(健全な赤ちゃんを生み育てる)
 - 2、すこやかに育つ
(心身ともに強靱で聡明な人づくり)
 - 3、すこやかに老いる
(健康体老人づくり・不老長寿・生存限界年齢・自然死への接近)

これらの目標を実現するためには、誰でも(どんな貧乏人でも)いつでも(24時間365日生涯にわたって)学術の進歩に即応する最新・最高の包括医療サービスと、文化的な健康生活の保障を享受する事が必要である。



1962年(昭和37年)に計画を策定し遂行したことを資料館で改めて学び、多くの参加者が深く感銘を受けました。その資料館から心温まるプレゼントをいただきました。深沢晟雄資料館の回りには燦々と夕陽のように輝くオレンジ色のコスモスが咲き乱れていました。そのコスモスの名は「サンセットコスモス」。世界的傑作品種。深沢晟雄の銅像が建立された1966年、園芸高崎種の世界大会、オーストラリアカンセクションで金賞受賞。当時、深沢晟雄銅像前に植えられたので、今でも「村長バナコ」と呼ばれて親しまれている花の種を参加者全員がいたので帰って来ました。きつと来年の10月には石山の多くの地域でこのサンセットコスモスが咲き町を彩ることでしょう。この研修旅行はたくさんの方の組合員のみならず、大いに交流を深め、楽しく過ごすことのできた研修となりました。石山総支部運営委員会では「毎年行いたいね」と、これからも共に学び、集うことを約束し、楽しい旅も終了を迎えました。

サンセットコスモス(村長バナコ)が拡がっています

平成22年11月1日 新潟医療生活協同組合(紙より)